

世界に輸出された肥前磁器の全貌

講師：大橋康二先生

- 1644年、中国の王朝交替に伴う内乱で中国磁器の輸出激減。
- 1647年、中国磁器に代わって肥前磁器の輸出開始。
- 1644年以降、肥前磁器は色絵をはじめ著しい技術革新
中国から技術導入し、1647年頃、色絵磁器焼成に成功。
- 1659年からオランダ東インド会社によるヨーロッパ輸出など海外輸出が本格化
- オランダの厳しい注文により色絵も変化。
- 1670年代には柿右衛門窯で乳白手の完璧な素地ができるようになる。
- この素地に繊細な色絵付けをほどこしたものが典型的な柿右衛門様式。
- 本格的輸出時代は1659年～1757年の約百年
- 輸出総量は推計約370万個以上。
- 主に、オランダや中国商人が海外の消費者の需要を伝え、長崎で日本の商人が受けて、有田の窯元に伝える。
- 1659年～1683年までの中国磁器輸出が激減している時期は、注文生産だけでは間に合わず、有田が国内向けに作った高級磁器の中から選んで輸出。
- 東南アジア市場には中国船とオランダ船両方が運ぶ。有田だけではなく、肥前一带の磁器が輸出された。
- インドネシア・バンテン王宮遺跡
16世紀中葉～19世紀初にかけて栄えたイスラム教を奉じるバンテン王国の都
- スラウェシ・ブトン王城
16世紀後半から栄えたイスラム教のブトン王国の王城
ブトン王城出土のヨーロッパ王侯向けの有田磁器
- ベトナムのホイアン（世界遺産）
日本同様に箸を使うため、碗と小皿。
- タイのアユタヤ
箸は使わず手食であり、皿はなく碗のみ。
- インドのムガル帝国の王城に大皿。
近年、東海岸のプリカットで芙蓉手皿が出土。
- トルコ
オスマン帝国（イスラム教）は16世紀に大帝国となったが、1571年レパントの戦いでキリスト教国に破れ、拡大止まる。

オスマン帝国への17世紀後半の有田磁器搬入は紅海側。18世紀前半になるとヨーロッパ側から。

礼拝前の手洗い用水注

- ・ 南アフリカの中継地ケープタウン
1652年、オランダ人が入植。町建設。
テーブルベイで1697年沈没のオースターランド号から有田磁器引き上げ
- ・ ヨーロッパ輸出
- ・ 1659年オランダ東インド会社によるヨーロッパ輸出本格開始
- ・ ヨーロッパの生活の変化に基づく有田磁器
- ・ 当時、ヨーロッパには軟質等の陶器しかなく、東洋の硬く美しい磁器が求められた。
- ・ ヨーロッパの磁器生産は有田より約100年遅れ、ドイツのマイセンで焼成開始。
- ・ 酒器
- ・ ワインジャグを1660年代前後に輸出。
- ・ 17世紀末よりコルクの使用で現在のようにガラス瓶となる。
- ・ コーヒー
- ・ 1652年ロンドンにコーヒーハウスができコーヒーの飲用が盛んになる。
- ・ 1670年代から同意匠のコーヒーカップと受け皿出現
- ・ 有田磁器コーヒーポットも出現
- ・ 従来、オランダ出土の有田磁器の種類は主にカップ&ソーサーであった。
- ・ オランダ・アムステルダム
- ・ オランダの発掘で新発見の陶磁器（輸出時代以前の初期伊万里、初期色絵）
- ・ 輸出初期のコーヒー・紅茶用カップ
- ・ チョコレート飲用
スペイン人が南アメリカから17世紀に持ち込む。17世紀後半からヨーロッパで飲用が流行る。
- ・ 有田磁器のチョコレートカップをスペイン船が太平洋を運び、中南米に。
- ・ 1745年頃には把手付きのチョコレートカップを中国が作る。把手付カップの初現。
- ・ 染付市場は1684年以降景德鎮に奪回される
- ・ オランダ・Twickel城
西洋風景図
チャイニーズ・イマリ
- ・ 理髪外科医に係る髭皿と膏薬壺出土
今まで見られなかった大壺類も出土
- ・ 有田の輸出時代末期の磁器出土

- ・ 以上のように、アムステルダムの地下鉄南北線工事で多量・多様な有田磁器が出土した。
- ・ ヨーロッパにおける柿右衛門様式磁器
- ・ オランダとの関係がよい国、新教(プロテスタント)国
- ・ 1689年、オランダ総督ウィリアム3世とメアリー夫妻は名誉革命でオランダから上陸し、共同即位。柿右衛門様式を愛でたメアリー女王
1694年、メアリー女王死去。
- ・ 英国の貴族の館に伝来する柿右衛門様式磁器
- ・ シャーボーン城、ディグビー卿(ブリストル伯爵家を継ぐ)
1688年11月にオランダ総督ウィリアムと妻メリーがシャーボーン城に3泊した。
2ヵ月後に名誉革命でウィリアムとメリーがイギリス王となる。
- ・ 1690年代に金・赤を多用する金襴手様式が現れ主流となる
- ・ 18世紀前半頃、欧州の王侯から室内装飾用に壺・瓶5点セットが求められた。
有田は景德鎮の色絵と競争する中で、金・赤に絞りコストも下げた色絵を開発。
- ・ プロントク(1740年頃)の原画(1740年頃)をもとに注文
- ・ 日本の風俗意匠を描いた有田磁器
- ・ 1757年、公式輸出の終わり。なぜ輸出時代が終わったのか
1684年中国の内乱が収まり、再び中国磁器が世界に輸出されると、たちまち価格競争で敗れ、東南アジア市場などは中国に奪回される。その後はヨーロッパ市場で有田だけが景德鎮と競争するが価格競争で敗れ、またオランダがイギリスなどに負けて力を失うこと、ヨーロッパで磁器生産が始まること。